

2028

お家で踊れる簡単親子ダンス

Easy Parent-Child Dance Instruction

AD33 保坂 真瑠実
指導教員 西野 隆司

1. 研究目的

近年では共働きの親が増え、親子同士の関わりが少なくなっている。子供の頃の親との意思疎通が足りないことが原因で人とうまく話すことができなかつたり自己表現が苦手になったりする場合がある。もっと親子のコミュニケーションを増やし、そういった現状を変えるような教材を作ろうと考えた。

2. 調査と分析

(株)ヤマハミュージックジャパンによる、3 から 5 歳の子供を持つ全国の父親・母親 500 名を対象に「親子のコミュニケーションに関する調査」を実施した結果によれば、「不足している」と感じる親は総計 68,2%にのぼった。そう思う理由として、ほとんどの人が家事や仕事で忙しいことを上げ、現代社会における忙しさに比例しコミュニケーションが不足していることがわかった。

そんな中、親子でコミュニケーションがとれる習い事がなにかないか調べてみると「リトミック」という習い事があった。実際に教室に出向き、先生からお話を伺った。リトミックとは、生演奏にあわせて身体を自由に動かし表現する情操教育の一つだそう。6歳くらいまでの子供には親が付き、親子一緒に習い事を受けるのが大きな特徴である。だが、まだまだ知名度が低く、すぐ成果が目に見えるような習い事ではないため、お金を払ってわざわざ受けようと思う人は少ないのが現状である。

また、幼稚園に出向き6歳の男女各3人に「言葉を使わずに身体で“おなか痛い”というのを表現して」といった音楽なしのリトミック的な表現を投げかけてみたところ、全員が恥ずかしがって「できない…」「どうやってやればいいのかわからない…」などと答えた。

3. コンセプトの立案

調査と分析をもとに「親子で楽しく簡単にコミュニケーションがとれるダンス」をテーマとし、「家の狭いスペースでもできて、近隣に迷惑がかからないダンス」を考案する。

4. デザイン展開

以上のコンセプトを踏まえた上で、何よりも親と子供のふれあいに重点を置き、二畳ほどの広さで行えるダンスを創作した。検証の結果で2歳から3歳児くらいの子供は体の構造的に頭の上で手を叩

けないことがわかった。このことを踏まえ、さらにダンスを改良していった。また PDF で説明書を作り、簡単にダンスの説明を入れケータイでも確認ができるようにした。

5. 完成図



6. 結論

検証の結果、親からは「子供と一緒に踊ったことはなかった。楽しかった。」という意見から親子の新しいコミュニケーションツールを増やすことに成功した。ほかにも、「10年ぶりに踊った。疲れた。」という意見もいただき、親に負担がかかることもわかった。子供からは「楽しかった、もっと踊りたい」という「楽しく」というキーワードを感じてもらうことができた。しかし、年齢によってダンスに対する意識が違うことから、一種類のダンスで全年齢の親子を対象にするのは難しいと考えた。年齢にあった様々な種類のダンスを考え、より長期にわたる調査と検証が必要だと感じた。

文献

[1]最近の親子は約7割がコミュニケーション不足、その解消法の1つは…<http://woman.mynavi.jp/article/141216-212/>